

愛&ハート

2026年新春のごあいさつ

◆社会福祉法人全電通近畿社会福祉事業団 理事長

◆愛の家 施設長 ◆あいハート須磨 施設長 ◆あいハート離宮前 施設長

【愛の家】

- ◆きぼう
- ◆かがやき
- ◆グループホームみさき
- ◆工房みさき
- ◆みらい

【あいハート須磨】

- ◆特養・ショート
- ◆デイサービスセンター
- ◆居宅介護支援事業所
- ◆あんしんすこやかセンター
- ◆厨房
- ◆脳梗塞リハビリステーション神戸須磨

【あいハート離宮前】



年

2026 January

280号

愛の家
利用者さんの作品



あいハート須磨
利用者さんの作品



あいハート離宮前
利用者さんの作品





変革を推進する



社会福祉法人
全電通近畿社会福祉事業団
理事長

橋本 寿樹

新年あけましておめでとうございます。
皆さまにおかれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

日頃の当法人に対するご支援・ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

私たちの事業を取り巻く環境が時代とともに大きく変化する中で、事業団設立（1971年）から、変化に対応するために様々な施策を実施するとともに、新たな施設を展開し、地域、社会から必要とされ、信頼される法人を目指しています。

そのような中で、設立50年の20

21年に、今後の発展する組織、成長する職員を目指して、「中期ビジョン」を作成しました。その中では、現状に留まることなく、変革を推進すること、様々な環境変化に対応



するために、新しい制度や技術、方法等を積極的に取り入れるとともに、従来のルー

ルや方法等を検証し、必要な見直しを実行しています。また、質の向上により、業界最高水準の労働環境・条件を整えるとともに、それに見合った質の高いサービスの提供を目指しています。また、高い規律性や倫理観を持ち、各施設との一体的な運営による総合力の発揮に向けて取り組んでいます。

今年度の経営面においては、中期決算では、各施設とも概ね順調に推移しているところです。年度末に向けて、物価高や人材の確保・育成等、課題は山積していますが、事業計画達成に向けて取り組んでいきます。今後も安定した経営基盤を確立するとともに、地域福祉の拠点として更なるサービスの充実、発展に努めて参ります。

引き続き当法人へのご理解・ご協力をお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。申し上げ年頭の挨拶にさせていただきます。



愛の家 施設長
渡會 幸喜

新年あけましておめでとうございます。施設長として迎える初めての新年にあたり、皆さまの日頃からの温かいご支援に心より感謝申し上げます。昨年5月の就任以来、余裕のない中でも試行錯誤しながら向き合い、日々が学びの連続でしたが、職員の皆さまに支えられながら着実に歩むことができました。

昨年は、児童部の増築と新作業棟の建設という、大きな節目の年でもありました。児童部の増築により、より安全で落ち着いた環境が整いました。定員変更については保育士不足の影響により現時点では延期となっております。引き続き採用確保と職場づくりに力を注ぎ、子どもたちへの支援体制を強化してまいります。

成人部門では、新しい日中活動拠点「まるのわ」が完成し、本年1月より活動を開始いたします。「まるの



わ」は、その名の通り、利用者・職員・地域を丸く大きく包み込む「つながり」と安心の

「輪」をイメージして整備した施設です。働く喜びや人とのつながりを感じられる場として、地域に開かれた拠点となるよう育ててまいります。

今年度は中期経営計画の最終年にあたり、これまでの歩みの振り返りと次期計画の策定が大きなテーマとなります。次期中期経営計画では、グループホームの新たな拠点整備への着手をはじめ、将来を見据えた基盤づくりに取り組んでまいります。また、工房みさきでは、工賃向上に向けた新たな作業の確立を進め、利用者の働く力と生産性の向上を支えていきたいと考えております。

施設長1年生として、まだまだ学ばべきことはありますが、これからも職員と力を合わせ、利用者のご家族に安心と成長を届けられる施設運営に努めてまいります。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



あいハート須磨 施設長

根本 浩司

新年あけましておめでとうござい
ます。皆様におかれましては、輝かし
い新春をお迎えのことと心よりお慶
び申し上げます。平素より、特別養護
老人ホームあいハート須磨の運営に
多大なるご理解と温かいご支援を賜
り、厚く御礼申し上げます。

2026年の干支である「午年」
は、古来より「躍動」や「前進」を象徴
するとされ、活発な行動力によって新
たなチャンスをつかみやすい年と伝え
られています。さらに本年は「丙午（ひ
のえうま）」にあたり、強いエネルギー
で道を切り開く「火」の性質を併せ持
つことから、より一層パワフルで挑戦
的な一年になるといわれています。私
自身が午年ということもありますの
で、あいハート須磨もこの象徴にあや
かり、現状の課題を乗り越え「躍動」
「前進」できる一年としたいと考えてお
ります。

近年、福祉業界は労働人口の減少
に伴う人材不足、人件費や物価高騰
によるコスト増加、さらには自然災害



への備えなど、多様
で深刻な課題に直
面しています。特に
介護職員の確保は
喫緊の課題となつて

います。当施設でも人材の確保・育
成・定着に力を注いでまいりました。
採用面では定成果が見られるもの
の、育成段階において離職が複数発生
しており、これが克服すべき大きな課
題の一つであると認識しています。

この課題を解消するためには、職
員が安心して成長できる環境整備が
急務です。予定している事業構造の
見直しに加え、周辺業務の切り出し
による適切な職種分散、さらにA-I
の活用等を通じた業務効率化などを
積極的に進めながら、新人職員を安
定して育成できる体制を整えること
で人材の定着を図り、サービスの質
向上を目指してまいります。

次期中期計画（2026年度）
2028年度では、こうした目標の
実現を大きな柱として掲げる予定で
す。2026年度はその初年度にあ
たりますので、午（うま）が象徴する
「躍動」「前進」の年となるよう努めて
まいります。

今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を
賜りますことをお願い申し上げ、新
年のご挨拶とさせていただきます。



あいハート離宮前 施設長

古崎 徹

新年あけましておめでとうござい
ます。

旧年中は、あいハート離宮前の運
営に格別のご高配を賜わり厚く御礼
申し上げます。

あいハート離宮前はまもなく開
設14年目を迎えますが、平均年齢
が90.8歳というご長寿でお元気な
ご入居者様とともに陰様をもち
まして今年も全館満室という盛況
のうちに新年の佳節を迎えさせて
いただくことが出来ました。

さて、最近の当ホームの風土に関
することですが、私が常々職員に求
めています「満足を超え、感動を得る
ホスピタリティ」の精神が芽生えて
きたと実感できる場面に遭遇する機
会が多くなり喜ばしく思っています。

そしてこれは目に見える成果とし
ても現れており、ここ数年のご契約で
は過去や既存のご入居者様による紹
介や、多額の入居一時金の初期償却を
失つてまで他の有料老人ホームから
転入されるケース、リピーター（お父



様が利用されたの
ちにお母様も利用
されるなどの割合
が増えています。
全国の有料老人ホ

ームの平均入居率が84%を割り込む
ような状況にある中で、当ホームで
はご利用者を含め100%の入居率
が維持できています。また、職員も質
の高いホスピタリティが自分たち
の処遇の向上に繋がることが理解す
るようになってまいりました。

一方で上質なホスピタリティや、
介護サービスとホテルサービスの融
合を目指すという意識は芽生えつつ
も、具体的かつ自主的に付加価値や
何をすべきかを見出せる水準には至
っておらず、取り組みの大半がトップ
ダウンという課題がありますので、引
き続き職員の育成に注力して、職員
から私が想像もできないような新た
なホスピタリティが引き出せるよ
うになりたいと考えています。

ご承知の通り介護業界の人手不足
は極めて深刻な状況にあり、サービ
スに直結するスタッフの確保と育成
には多くの苦難が伴いますが、新し
い年も全職員の精励と英知を結集さ
せ、「感動」が得られるような介護サ
ービスがご提供できますように「一層の
努力をしてまいります」。



愛の家

きぼう

◆ 児童部部門長 川崎 明美

新年あけましておめでとございませう。日頃より、当施設の運営ならびに子どもたちの成長を温かく見守り、ご理解とご協力を賜っておりますことに、心より御礼申し上げます。

昨年度は、新棟の完成により十床の増床が実現し、子どもたちがより安全で安心して過ごせる環境を整えることができました。新しい生活空間の中で、子どもたちが落ち着いて活動に取り組み、自分らしさを伸ばしていく姿が見られるようになり、私たち職員にとっても大きな喜びとなっております。

また、今年度は2名の児童が卒業し、地域へと大きく羽ばたいていきます。これまでの歩みを胸に新たな生活へ踏み出す姿は、私たちにとても大きな感慨をもたらすものです。こうした成長を支えてくださった保護者の皆さま並びに関係機関の皆さまに、改めて深く感謝申し上げます。



2026年は、この環境をさらに活かし、一人ひとりの特性や願いに寄り添った支援を、より丁寧に積み重ねてまいります。併せて、子どもたちの成長をしっかりと支えられるよう、体制づくりにも努めてまいります。

本年も、子どもたちの健やかな成長のため、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

かがやき

◆ 部門長 山本 裕之

新年明けましておめでとございませう。皆様におかれましては健やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は施設運営にあたり、皆様方のご理解とご協力を賜り、改めて感謝申し上げます。

さて昨年の12月に、利用者がより快適に活動できる場として、新しく作業棟が完成しました。これまで職住分離が十分ではなく、生活スペース内で日中活動を取り組むことが多くありましたが、明確に活動場所を分けることができました。

作業棟へは本棟から渡り廊下で繋



グループホーム みさき

◆ 主任 山口 真吾

あけましておめでとございませう。2025年は、大阪・関西万博が開催され大盛況となり、阪神タイガースのリーグ優勝も相まって、関西が大いに盛り上がった一年でした。

グループホームにおいては、この二年も

限られた人員体制の中で、日常の支援を安定して提供できるような努

めてまいりました。大きな変化はなくとも、日々の積み重ねが利用者さんの安心につながった



年であつたと感じています。

一方で、世話人・利用者双方の高齢化や慢性的な人手不足は、今後の事業継続に関わる重大な課題と捉えています。そこで、来年度から始まる新たな中期計画では、「サステナブルな取り組み」として、負担が一部に集中しない働き方の工夫、情報共有の強化、役割分担の整理など、無理なく運営を継続できる体制づくりを重点に据えてまいります。さらに、こうした基盤整備に加えて、地域ニーズを踏まえた事業拡大の可能性についても検討を進めます。

支援の質を維持しつつ持続可能な仕組みを整え、利用者さんの暮らしの選択肢を広げ、安心して過ごせる住まいを守るとともに、職員にとっても働き続けやすい環境づくりを目指してまいります。

本年も変わらぬご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

工房みさき

◆ 部門長代理 谷口 誠

新年あけましておめでとございませう。旧年中は、愛の家「工房みさき」の活動に温かいご支援とご協力を賜り、心より感謝申



し上げます。

私たちは、利用者の皆さまが安心して過ごせる居場所であることを第一に、一人ひとりの「できること」や「やってみよう」を尊重しながら、日々の生活の中で小さな喜びや達成感を積み重ねられるよう取り組んでまいりました。地域の皆さまやご家族の支えがあつてこそ、活動の場が笑顔に満ち、温かな交流が育まれていることを改めて実感しております。

皆さまが自分らしく過ごし、仲間とともに喜びを分かち合えるよう、より一層の工夫と心配りを重ね、安心と希望に満ちた場づくりに努めてまいります。さらに、地域とのつながりを深め、世代を超えた交流の輪を広げること、より豊かな学びや体験を共有できる場を築いてまいります。こうした取り組みを通じて、未来へと続く歩みを一歩ずつ重ねていけることを願っております。



新しい一年が、皆さまにとって健康で穏やかで、そして楽しい時間に満ちたものとなりますよう心よりお祈り申し上げます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

みらい

◆リーダー 片岡 正年



新年明けましておめでとうございます。相談支援センター「愛の家・みらい」です。旧年中はひとかたならぬご愛顧にあずかり、誠にありがとうございました。本年も「層のサービス向上を目指し、誠心誠意努める所存でございます。何卒本年も倍旧のご支援のほどお願い申し上げます。

私たちは、今まで通り利用者の皆さまの夢が実現できるよう一緒に考えていきたいと思っております。昨年さまざまな課題がありましたが、関係機関と連携をとり問題を一つずつ解決してまいりました。今年もさまざまな事例が出てくると思いますが、丁寧に対応していきたいと思っております。また新規契約者も増え、事業運営の面で改善がみられるようになりました。ただ利用者数の増加により、対応が希薄にならないように気を付けていきます。

本年は午年でございます。昨年の日曜劇場『ザ・ロイヤルファミリー』のように様々な試練があつても人と人の絆を大切に、



試練を乗り越えていけるよう、また午年の勢いにあやかり、力強く前進してまいりますので何卒よろしくお願い申し上げます。

あいハート須磨

特養・シヨート



◆副施設長 特養・シヨート部門長

仙波 剛

新年あけましておめでとうございます。旧年中は施設の運営にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございました。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

昨年は「2025年問題」と呼ばれる大きな節目を迎え、介護業界全体が人材不足や制度の課題に直面しました。私たちもその影響を肌で感じながら、離職防止や働き方の工夫、ICTを活用した業務効率化などに取り組んでまいりました。まだ課題は多く残されていますが、少しずつ改善の兆しも見えてきています。

介護職は「きつい・汚い・給料が安い」といった固定的なイメージを持たれることもあります。しかし本来は、利用者様や



ご家族様と信頼関係を築き、人生の終末を支えるという尊い役割を担う仕事です。職員一人ひとりが「やりがい」を感じられる環境を整え、定着して働けるようにすることが、自分自身の使命だと考えています。

昨年、あいハート須磨は創立30周年を迎え、記念行事を通じてこれまでの歩みを振り返り、未来への一歩を踏み出しました。本年はその節目を越え、中期計画、事業計画を基に、直面する課題をつひとつ乗り越え、「雲外蒼天」の思いを胸に、皆様と共に前進してまいりたいと存じます。

また、新年度には旧年度実施できなかった委員会活動を再開します。介護方針を軸に委員会活動に取り組み、ケア質の向上、職員の介護スキルの向上にも注力してまいります。

デイサービスセンター



◆部門長 原田 浩樹

新年あけましておめでとうございます。旧年中は当デイサービスセンターに温かいご支援を賜り、心より御礼申し上げます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

昨年もあいハート須磨デイサービスセンターでは、日々たくさんのご利用者様と関わらせていただきました。それは私たちにとても大きな喜びであり、何よりの学びです。この出会いに感謝し、つひとつのご縁を大切にしながら、今後引き続き「安心して過ごせる場所」と「笑顔あふれるひととき」を提供できるように努めてまいります。



2026年は、より選ばれるデイサービスセンターを目指し、以下の三つのことを意識しながら、重点的に取り組んでいきたいと思えます。まず二つ目は、「生活機能の維持向上につながるリハビリや活動の充実」。

二つ目に、「職員の専門性を高め、やりがいと働きやすさが両立する職場づくり」。

三つ目は、「地域やご家族との連携を深め、在宅生活を支える体制の強化」です。本年も、「ここに来て良かった」「また来たい」と感じていただけるセンターであり続けられるよう、出会いへの感謝を胸に、心を込めて支援にあたってまいります。皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



居宅介護支援事業所

◆部門長 丸島 幸子

心身ともに健康で充実した日々を送れるように仕事とプライベートを両立したいと思っております。

◆部門長代理 橋本 裕弥
仕事もプライベートも新たなことへの挑戦する1年にしたいです。時間も無駄にせずにご協力したいと思います。

◆主任 菅家 妙子
感謝の気持ちを忘れず謙虚に行動すること、心掛け、休みの日は図書館で本を読みしたいと思います。

◆余田 恵
今年も「夢と魔法の王国への旅」ができるように、仕事に励みたいと思います。

◆今城 ゆり
夜型人間の私・今年は良質な睡眠をとる事を目標にしてみます。時々、楽しい夢も見れたらなあ。

◆浪江 知永子
楽しく仕事ができ続けられるように小さな達成感の積み重ねを心がけ体のメンテナンスにも努めます。



◆毛利 芽衣
関わってくださる全ての方に感謝しながら、日々の仕事に落ち着いて取り組んでいきたいと思えます。

◆西中 志保
日々を楽しみを持ち、一つ一つ丁寧に取り組んでいきたいと思えます。

◆大藤 孝子
自分ができることを大切にして日々楽しみを見つけたと思っています。

あんしんすこやか センター



◆部門長 柏木 照子
信頼されるセンターを意図し、笑顔と感謝、一期一会・繋がりを大切に、しなやかにいきます。

◆主任 大道 雅子
「無理をせず、楽しみを持ちながら」を合言葉に本年も業務に取り組んでまいります。

◆日和佐 祐樹
「泰然自若」自然体でものごとに動じず、落ち着いて向かい合いたいです。

◆齋藤 知見
「健康第一」心身ともに笑顔で過ごし、潤いのある日々を送っていききたいです。

◆立浪 雅美
心に余裕をもち、周りを俯瞰することを意識しながら日々業務に取り組んでいきたいです。

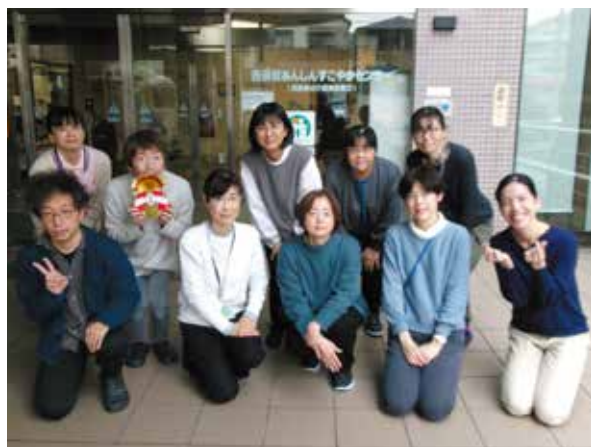
◆藤井 幸代
日々の出会いや出来事への感謝を忘れずに、笑顔ある生活を目指します。

◆篠崎 美菜子
心の断捨離もしながら、気持ちにゆとりを持って過ごしていきたいです。

◆平池 方子
明石家さんまさんの師匠の「おもろないことを面白く」の精神で今年も精進いたします。

◆井上 久美子
笑顔、素直、謙虚を胸に日々、頑張ります。

◆森元 淳子
須磨の地域に長く住んでいる方に出会うたびに地域の魅力再発見。出会いを大切にしたいです。



厨房

◆ 部門長 澤田 州子



新年あけましておめでとうございます。

昨年は入居者の皆さまの健康を食事面から支えるにあたり、ご家族の皆さまの温かいご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

本年も「安心・安全で美味しい食事」を基本に、季節を感じられる献立や、食べる楽しみを大切にしたい取り組みを続けてまいります。

また、職員や地域の皆さまと連携しながら、より良い環境づくりに取り組んでまいります。



皆様にとつて、笑顔あふれる一年となりますようお祈り申し上げます。本年もどうぞよろしくお願いたします。

脳梗塞リハビリステーション 神戸須磨



◆ センター長 伊藤 正憲

明けましておめでとうございます。
4月から小舟PTが仲間に加わり、

常勤2名の新体制で今年度をスタートした脳リハ。上半期の半年間で過去最高の810件（身体リハ750件、言語リハ60件）の支援を提供することができ、603件であった昨年度の同時期を約200件上回りました。

強みをもっとわかりやすく訴求したいとリニューアルした公式ホームページは、「洗練されていて良いですね」と、皆さまからもうれしい声がありました。初めて開催した脳卒中当事者の会「脳リハ交流会」は、当事者やご家族さま同士が日々の工夫や後遺症の悩みを分かち合う機会となりました。

新たな中期計画で始動する2026年度計画を策定するにあたり、最も重要となるのが戦略マップ（BSCシート）の作り込みです。「考えては修正、考えては修正」と、これを繰り返しているときにワクワクが止まらない自分自身がいました。

「夢なき者に理想なし、理想なき者に計画なし、計画なき者に実行なし、実行なき者に成功なし」、これは江戸時代の思想家・教育者である吉田松陰が遺した言葉です。綿密に練った計画に軸足を置き、いきいき



と仕事に取り組む、今年の脳リハも力強く邁進します。

あいハート離宮前

◆ 主任 濱田 誠二郎



新年あけましておめでとうございます。

皆様には日頃より当ホームの運営に温かいご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

近年、ChatGPTやGeminiなどの生成AIが広く活用されるようになってきました。あいハート離宮前でも、居室の見守りカメラや生活記録ソフトの導入などICT化が進んでおりますが、生成AIの活用についてはまだ十分とは言えない状況です。

今後、生産年齢人口の減少や人件費の上昇が見込まれるなかで、効率的に、そしてこれまでと変わらぬホスピタリティを保ちながらサービスを提供し続けるためには、業務改善がますます重要になると考えています。その二つ



ご支援をくださった方々

《11月》

◆ 寄付金

NTT労働組合退職者の会神戸地区協議会 様

NTT労働組合関西総支部大阪南分会 様

近藤 敏子 様

美谷 恵津子 様

(計4件)

の手段として生成AIは大きな助けとなる可能性があります。私自身も文章や資料作成、事故報告書の再発防止策の検討などに生成AIを活用し、業務効率化の効果を実感しています。今後は介護現場でもこうした技術を取り入れ、2026年はさらに業務改善を進めていきたいと考えております。



インソールは片麻痺の動きも変える

脳梗塞リハビリステーション神戸須磨 主任 小舟 裕也

皆さまはインソールというものをご存じでしょうか？「インソール＝中敷き」と認識されがちですが、両者には少し違いがあります。中敷きはフラットな形状のものが多く、サイズが大きな靴を履きやすくする、蒸れを防止するといった役割を果たします。一方でインソールは、中敷きの役割に加えて、足のアーチをサポートする、足の動きを誘導する機能を持ちます。靴に挿入したインソールが足底面を介して全身の動きを修正し、最適な足のコンディションで歩くことを実現します。

市販されている汎用性のあるインソールからオーダーメイドで製作する個別性の高いインソールまで、その種類は多岐に渡ります。オーダーで作ると一般的に数万円の製作費用が掛かりますが、当センターでは100円ショップでも販売されている床の傷を防止するフェルト(写真1)を使って簡易型のオーダーメイドインソールを製作・提供しています。

当センターを利用している脳出血左片麻痺例に実際に提供したインソールを紹介します。左下肢での片足立ち保持(写真2)を評価すると、運動麻痺(痙縮)により足が内反し、足底の接地面が狭くなっています。麻痺側の動きをさらに詳しく分析すると、距骨下関節と横足根関節が回外し、足趾屈曲と足関節の背屈が生じて指先と足底の内側が浮いています。この足の状態は、荷重連鎖で下腿の後傾と外旋を引き起こし、さらには骨盤の左回旋をきたし、下肢全体の左後方へ傾きを強めています。バランス戦略として体幹は屈曲・左側屈・右回旋しており、Tシャツには深い横皺が多くあるのがわかります。

このケースのインソール挿入のポイントは、①後足部の回内を誘導すること、②前足部の回外を誘導すると同時に回内を制動することです。これを踏まえ、厚みや硬さの違うフェルトを組み合わせる足裏に直接貼り付けていきます。「貼付→動作チェック→貼付位置の微調整→動作チェック→貼付位置の微調整…」と、このプロセスを繰り返して最適な貼付位置を決定します。今回は4種類のフェルトを5か

所に貼り付けました(写真3)。この足のコンディションで片足立ちをしてみてもうと、浮いていた足の内側と指先が床に接地しているのがわかります(写真4)。ご利用者も足の接地感の良さとバランスの取りやすさを実感されました。写真3の配列で中敷きにフェルトを装着し、この段階でも微調整を重ね、簡易型オーダーメイドインソールが完成します。完成したインソール(写真5)を普段履いている靴の中に挿入していただいております、日常生活での歩きやすさも実感されています。

足の内反は、「土踏まずが浮いてしまう」「体重をかけると捻挫しそう」と、多くの片麻痺例が悩まされる麻痺のひとつです。挿入するだけで良い荷重連鎖が生まれ、歩きやすさに繋がるのもインソールの魅力ですね。後遺症リハビリに加え、適応があるケースにはインソールを提供することも脳リハの強みです。



写真1



写真2



写真3



写真4



写真5

「皆様の声」受付窓口

全電通近畿社会福祉事業団では、社会福祉法第82条の規定に基づき、利用者家族の皆様等から「苦情」やご意見に適切にお応えするための体制をとっています。面接・電話・書面等のようなかたちでも結構ですので、遠慮なく、お気軽にお申し出ください。

- 愛の家 072-494-0123
- あいハート須磨 078-737-2525
- あいハート離宮前 078-731-2130
- 法人本部 06-6458-5723

【発行】

社会福祉法人 全電通近畿社会福祉事業団
〒553-0003 大阪市福島区福島 3-1-73
TEL 06-6458-5723
Website <https://www.zendentu-kinki.jp>
Facebook <http://www.facebook.com/zendentukinki>
E-mail jigyodan@silver.ocn.ne.jp

【発行人】

理事長 橋本 寿樹

